

ラクオリア創薬

名古屋大学内に研究拠点を構築 2つの新薬の発売を控える

痛みと消化器を2大領域に多彩なパイプラインを保有

私たちはラクオリア創薬

は、ファイザーの中央研究所を母体として設立され、現在は名古屋大学のキャンパス内に研究部門を置く創薬ベンチャーです。新薬の開発には膨大な時間とコス

トがかかりますが、当社では、中堅医薬品メーカーに匹敵するほど多数のパイプ

販売などの状況にに応じて一時金やロイヤルティ収入を得ていく考えです。

ライン（新薬のタネ）をそろえ、有望なものについては早い段階からパートナー企業（製薬会社など）との協力を図っています。そして、その後の開発・承認

研究開発は、「痛み」と「消化器」が2大領域で、医薬品開発の王道ともいえる低分子化合物に特化した展開に特色があります。例えば「イオンチャネル創

薬」は、体の末端から脳に伝わる痛みの信号（電気信号）自体をブロックすることで、「痛みの万能薬」をめざすものです。すでに国内外の有力企業と共同研究を進めています。

「EP4拮抗薬」は、ペットなど犬の変形性関節症の治療薬で、すでに米国での動物薬承認を得て2017年早期の販売を目指しています。米国では年間1000万頭の

成長の原動力となるものです。これら以外にも当社では幅広い分野での創薬をめざし、産学連携にも積極的に取り組んでいます。例えば名古屋大学と

16年だけで9件の特許取得を発表しました。創薬を通じて人々の「健康と幸せ」に貢献する当社の今後にぜひご注目ください。



ラクオリア創薬
代表取締役社長

谷 直樹氏

ジャスダック

証券コード 4579

<http://www.raqualia.co.jp/>

2つの新薬が米国で発売
次の成長の大きなステップに
まもなく当社のパート
ナー企業から2つの新薬

「これは食道への胃酸の逆流や消化性潰瘍に作用する薬で、全世界で2兆円の規模を持つとされる有望市場です。」

「グレリン受容体作用薬」は犬の食欲不振症（体重減少）の治療薬として承認済みです。年間400万頭の犬が治療を受ける米国での発売を春ごろまでに予定しています。2つの新薬の誕生は、これからの私たちの

少ないが治りにくい病気に、新薬開発をめざしています。特許戦略にも力を入れていきます。出願件数は順調に伸びており、

ラクオリア創薬の歩み

2017年
2つの新薬を発売予定

2014年-15年
名古屋大学へ 創薬研究部門を移転

2011年7月
株式公開JASDAQ

2008年7月
ファイザーからスピンアウト

2008年2月
設立

創業 成長 発展 飛躍